

市町村指定文化財取材票 <<表>>

取材日	2023年	9月	10日	(記入者) 仲 秀和	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰籐	東辻	本井	
取材対象先	十津川村：旧武蔵小学校				

所在地	吉野郡十津川村大字武蔵530				
所有者(取材対応者)名	大字武蔵(十津川村歴史民俗資料館 * 氏) (個人情報守秘)		連絡先 0746-62-0137		
	PCアドレス kyoikuiinkai@vill.totsukawa.lg.jp				
取材申込	申込先・行政名など：十津川村教育委員会事務局 教育課 **氏				
市町村指定文化財	彫刻	軀			
	建造物	1棟	旧武蔵小学校 1995(平成7)年11月20日指定		
文化財指定理由	当時の現状が住民によって維持されている。児童の机椅子教材が残され、雰囲気が残っている。保存状態が良好で維持されている。住民の望みがあり、大字の経済力で今後維持するのは困難であるため、村指定文化財として保存してゆくことにした。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	平成30年度に十津川村総合計画で定めた自動火災報知設備工事により火災報知設備(P型2級5回線)を設置している。さらに校舎前には雨水をためた消火槽、校庭には防火倉庫が設置されている。	消火器等機器の点検が定期的に行われているようである。
獣害対策	被害の有無、対策など ネズミなどがいる可能性があるが、イタチ、モグラ、タヌキなどは民家のほうに出没するので、食料を置いてないこちらには来ないとのことである。	記入者の感想 月2日の開館なので、閉館中の入り込みと、シロアリの対策も気になる。
保存～継承へ苦労と今後の課題と対策	「武蔵の大踊」がユネスコの無形文化遺産に登録され、住民の意識も高まっている。展示物については破損の心配はそれほどしていないが、建物は屋根の雨漏りや基礎部分の破損を心配している。村役場のほうから定期的に診断してもらっている。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

大正9年に新築され、昭和45年に閉校した小学校の校舎が教育資料館として残っていることに驚いた。多くの統廃合された学校は、取り壊して別の施設ができるところを現校舎として残せたのは住民の皆さんの保存に関する熱意だと思われる。そして十津川村役場の手厚い補助があるからだろう。さらにその校庭が「武蔵の大踊」の場として保存の役割もあったのではと。これからも人口の転出が続き減少が続くなかで校舎の保存と踊りの文化の継承が続くことを望みたい。

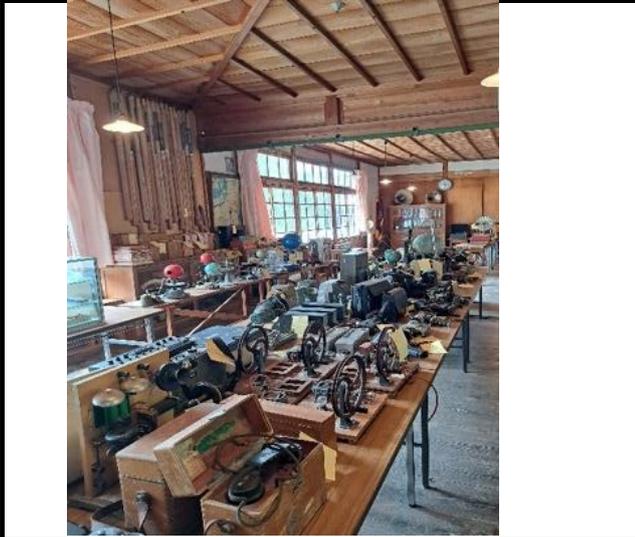
市町村指定文化財取材票〈裏〉

取材日	2023年	9月	10日	(記入者) 仲 秀和	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻	本井	
取材対象先	十津川村：旧武蔵小学校				

〈写真撮影許可済み〉

文化財指定名：旧武蔵小学校

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
	

教材展示の様子	教室の様子
	

文化財の由緒などを記入

1874 (明治7) 年8月光明寺を校舎として武蔵小学校を創立。1920 (大正9) 年10月に現校舎の新築落成式を行う。1970 (昭和45) 年3月統合のため廃校となる。1995 (平成7) 年に十津川村有形文化財に指定され、翌1996 (平成8) 年に十津川村教育資料館として開館した。児童が使用した机・椅子・ランドセルや当時の落書きなどもそのまま残され職員室には廃校当時の地区別名列表や時間割が貼られている。資料展示室には十津川の学校教育に関するものが数多く集められている。

所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入

旧武蔵小学校の校庭は8月14日「十津川(武蔵)の大踊」の会場になっている。雨天時は隣のお堂内で行われる。「十津川の大踊」は1989 (平成元) 年に国の重要無形民俗文化財、2022 (令和4) 年11月にユネスコ無形文化遺産に登録されている。踊りの発展継承ため北海道の新十津川町の児童を招待したり、大阪公立大学の学生の協力を得るなど努力されている。校庭の隣には楠正勝 (楠木正成の孫) と佐久間信盛 (織田信長の重臣) の墓がある。2017 (平成29) 年で大字武蔵の人口は101人、世帯数は50である。